

**CASBEE-広島 2014年版**  
**広島精密工業株式会社高陽第7工場**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>1.7</b>
<b>1 音環境</b>		<b>1.0</b>	0.15	-	-			<b>1.0</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>1.0</b>	0.40	-	-			
<b>1.2 遮音</b>		<b>1.0</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	-			
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.0</b>	0.35	-	-			<b>1.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>1.0</b>	1.00	-	-			
1 室温		-	-	3.0	-			
2 外皮性能		1.0	1.00	3.0	-			
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-			
<b>2.2 湿度制御</b>		-	-	<b>3.0</b>	-			
<b>2.3 空調方式</b>		-	-	<b>3.0</b>	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>1.3</b>	0.25	-	-			<b>1.3</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>1.8</b>	0.30	-	-			
1 屋光率		1.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>1.0</b>	0.30	-	-			
1 屋光制御		1.0	1.00	3.0	-			
<b>3.3 照度</b>		<b>2.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-			
<b>3.4 照明制御</b>		<b>1.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.5</b>	0.25	-	-			<b>3.5</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
<b>4.2 換気</b>		<b>3.3</b>	0.30	-	-			
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能	自然換気を積極的に採用している	4.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
<b>4.3 運用管理</b>		<b>5.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御	建物内は禁煙にしている	5.0	1.00	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.5</b>	0.40	-	-			<b>2.5</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>1.6</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>2.6</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペースとして食堂を106㎡程度設けている	4.0	0.33	-	-			
3 内装計画		1.0	0.33	-	-			
<b>1.3 維持管理</b>		<b>3.5</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	清掃、点検できるよう掃除用流しや天井点検口を設けている	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.30	-	-			<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.4</b>	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	長寿命性に配慮した配管にしている	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			2.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	十分な階高(7.5M)のゆとりを確保している	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		十分な荷重のゆとりを確保している。≒15000N/m <sup>2</sup>	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	1.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.00	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.10 住宅(専有部) -	1.0	0.62	-	-	1.0
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		1.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	
4 効率的運用			1.0	0.25	-	-	1.0
	集合住宅以外の評価		1.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1	節水	節水コマ水栓を使用している	3.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	ビニル床材 東リ/フロアリウム マーブルt=2.0mm	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	リサイクル可能な鉄骨を構造材に使用している	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	ホルムアルデヒド放散量区部 JIS F☆☆☆☆ を使用	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		3.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO <sub>2</sub> の発生を抑えている	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止	燃焼機器の使用はない。キッチンIHとする。	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内に駐車スペースを確保している	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	